

卒業論文

大学における講義シラバスの映像化

Visualizatoion of Course Syllabus in University

提出日 2013年 月 日

指導教授

齋藤正武 准教授

中央大学商学部

金融学科 山本将也 09C4166003D

商業貿易学科 岩田勇人 09C3144008B

# 大学における講義シラバスの映像化

## Visualizatoion of Course Syllabus in University

齋藤正武ゼミ

山本将也

岩田勇人

近年、インターネットの普及により様々なものが IT 化され、大学教育においても教員とのやり取りや事務的な処理の IT 化が進んでいる。学生が学期の始めに必ず行う履修登録作業においても同様のことが言える。履修登録作業の際、参考となる講義要綱(シラバス)は、従来冊子になっており、携帯しにくいものであった。学生にとってこの紙媒体である冊子がインターネットを通して閲覧できるようになったことは、利便性が高くなったといえる。しかし、履修登録を行う際、文字情報のみのシラバスでは、内容を理解し、学生の興味を喚起するものになっていない場合もある。例えば、内容が冗長であったり、専門用語が多く使用している場合もある。一方、履修する学生側もシラバスを読むこともせず、友人からの情報のみ楽に単位取得ができる、いわゆる楽単、に走る場合もある。

そこで本研究は、シラバスをより理解しやすくするためにシラバスの映像化を試みた。具体的には、誰でも簡単に制作することができるよう、映像のテンプレート化を図った。映像全体をイントロ部・ボディ部・クローズ部の 3つのフェーズに分け、それぞれのフェーズごとに映像の種類を用意した。映像化するにあたり、教員の要望(映像の種類)を聞き、制作を行った。

映像化の効果測定として、文字のシラバス及び制作した映像シラバスを閲覧した後、シラバス内容・理解度及び興味喚起についてのアンケートを実施した。サンプル数(60)は若干少ないものの映像シラバスのある一定の評価を得ることができた。

シラバス内容の理解においては、文字のみのシラバスの方が若干上回ったが、講義に対する興味や印象の強さは、映像シラバスの方が圧倒的に高かった。文字では表現できない映像(静止画や動画)の効果といえる。

結果として、映像シラバスは、学生が講義に対して興味をもつための入り口のような位置づけができると言えるだろう。

今後の課題として、映像シラバスの制作する環境の問題(誰が制作するか、どんな環境で制作するか)や運用の問題について議論する必要がある。本研究を通して、少しでも学生の履修行動に影響を与え、楽単に走るなど状況の改善と講義への関心が高まることを期待する。